

＜北海道熊研究会 会報＞ 第76号 2017年 7月 20日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

既報会報の1～74号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

既報会報の1～74号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

人が熊類との共存を実現するには

75 号の続きです

＜市街地や人家付近へ出没する熊対策＞

市街地や人家付近で熊が目撃される時季-----4月下旬～11月末の間である。出て来る熊には、必ず目的と理由がある。それを見極めることが大事。

＜出没の原因目的は4つに分けられる＞

① 5月から8月の間に母から自立した若熊が、5月～11月にかけて、住宅地がどうゆう所か、自分が生活地として、使える場所か否か、検証に出て来る事がある。この種の熊は母から自立した年の1歳代、ないし2歳代の若熊(母から自立した年の子の呼称)に限られる。出て来るのは夕方から朝方の間に、人を避けて出て来るのが特徴。但し、5月6月に出て来る1歳5ヶ月令未満の熊は(熊の年齢は2月1日を誕生日として計算する)、知恵が未発達で、日中や日没前に出て来ることもあるが、人を襲う事は無い(襲った事例が無い)。満2歳未満の野生熊が人を襲った事例は、私が1970年以降検証した限り皆無である。満2歳未満の若熊は、人を襲うという知恵が未発達で本能的に、人を襲わないと私は解して居る。よって、大騒ぎは不要である。2歳代の熊が、5月以前(年齢は2歳4ヶ月令である)に人を襲った事例はなく、6月以降(満2歳5ヶ月令)に、人を襲った事例が1970年以降5例ある。満2歳未満の熊は、足の最大横幅12cm以下、体長1.2m以下であり、満2歳代で、体長が1.2m

～1.3m前後、足跡の最大横幅は13cm未満（多くは12cm代である）である。

② 道路の横断(林から林へ移動するため)。原則として、人や車の交通量が少ない時間帯に横断する。この場合は熊の年齢は関係無い。

③ 農作物や果樹を食べに出て来る。多くは夜出て来る。熊の年齢に関係無い。時季は6月～11月。

④ その他(残飯探し。力のある個体に襲われて逃げ出る。子が出てしまい母が心配し出て来る。などがある)熊の年齢に関係無い。被害の予防対策は、<有刺鉄線柵や電気柵>、を一時的又は恒久的に張る。有刺鉄線網は目幅10cm間隔のを地面(下端は地面に接地する)から高さ1.8ないし2mまで張る。電気柵は太陽光電源のを設置する。

(付録)

<熊(熊・月輪熊)が居るか居ないかを、熊の痕跡の有無で確認する方法の一例です>
基本的な調査は、熊の足跡・糞・食痕を捜すことです。

<足跡>

本種に固有の足跡を探す。5指5趾で、人の手足跡に似ているが、手足とも第1指趾(ヤヅビ)が最も短い。

<糞>

直径10cm以上の円盤状の糞塊や直径3cm以上で断続していても全長が10cm数以上で、草類・樹の実を食べた糞で異臭(悪臭)が強烈で無いものや、アリ類 Formicidae が入っている糞は熊のものである。

<食痕>

① オオブキ P. japonicus の食痕

雪解けから5月にかけて、フキノトウ(花茎)の鱗片と茎を好食するが、花は稀にしか食べない(シカとの鑑別が必要)。6月から8月にかけて、葉柄の中程だけを好食し、葉付きの葉柄上部と葉柄の下部が葉柄の外皮で繋がった状態で残す(シカは葉を裏返しにした状態で落とし放置することが多い。シカとの鑑別が必要)。

② ミズバショウ L. camtschaticense の食痕

本種は稀にしか食べない。シカは好食するからシカとの鑑別が必要。

③ イラクサ U. platyphylla の食痕

4月5月に幼若な本草を食べる。6月以降も食べることがある。シカは4月から9月まで、本草の幼若なものから成育したものまで好食する。シカとの鑑別が必要である。

④ ヤチブキ(エゾノリュウキンカ) C. palustris の食痕

稀に葉柄を食べ、時に葉も食べることがある。花は極稀にしか食べない。葉や花は通常側に落とす。シカは葉を裏返しにした状態で落とし放置することが多い。シカとの鑑別が必要である。

⑤ オオバセンキュウ A. genuflexa の食痕

4月～7月にかけて、沢沿いで地上部を好食する。シカも好食するからシカとの鑑別が必要。

⑥ ザゼンソウ S. renifolius・ヒメザゼンソウ S. nipponicus の食痕

早春から晩秋まで両草を食べる。両草が有る場所は熊の憑き場となることがある。他の脊椎動物が食べることは稀で、食べる場合でも、葉の一部を食べるだけで、熊のような豪快な食べ方はしない。(了)